令和３年度　秋田県立大曲支援学校　研究の概要

目指す学校像　瞳かがやき　笑顔あふれる学校

児童生徒の課題　⟷　保護者の願い

研究主題　見える化で「分かった」「できた」「もっと知りたい」が高まる授業づくり

目指す児童生徒像

一人一人の障害の状態や発達段階，特性等に応じた知識，技能及び態度を身に付け，積極的に社会参加，職業自立できる児童生徒を目指す。

(1) じょうぶな子　　健康で，安全な生活ができる児童生徒
(2) すなおな子　　明るく，仲良く，礼儀正しい児童生徒
(3) がんばる子　　進んで取り組み，最後までやりぬく児童生徒

目指す授業

・児童生徒が学びの実感をもち，自ら学びに向かえる授業
・児童生徒一人一人が考えを膨らませて言葉や行動で表現しようとする姿を引き出す発問や手立てのある授業

研究主題設定の理由

令和２年度は，「考え、表現する力を発揮する授業づくり」を研究テーマとして，児童生徒の「考える力」「表現する力」に焦点を当て，国語、算数・数学で検証を行った。授業の基本をチェック項目にして整理・活用したことで，「めあて」に迫る手立ての工夫が行なわれ，主体的・対話的で深い学びにつながる授業づくりについて改善が図られた。しかし，対話的な学びの不足や児童生徒の変容の見取りで難しい場面があるという課題が残った。

今年度本校では，「新学習指導要領に対応した授業づくりの推進」が学校経営の重点事項の一つとして挙げられた。児童生徒の視点に立った授業改善の推進について、学習指導要領解説では，「これからの時代に求められる資質・能力を育成するためには，これまでの学校教育の蓄積を生かし，学習の質を一層高める授業改善の取組を活性化していくことが必要」（文部科学省，2018）と提唱している。

また、児童生徒の学び合いと学びの実感を目指した学習活動の「見える化」に取り組む。さらに、ICT 等の活用を含めた教材・教具についても「見える化」を図っていく。本校では，全教職員での授業づくりのビジョンの共有や障害特性や認知特性、各教科等の特質を踏まえた見方・考え方を働かせた学びや視点に立った授業協議の実施などにより，教育目標の具現化に向けて授業改善の活性化を図っていきたいと考えた。

研究仮説

視覚、聴覚、体感覚を組み合わせた学習展開の工夫と学習活動や教材の見える化により、児童生徒の活発な学び合いと学びの定着が図られ、深い学びにつながるであろう。

研究の内容と方法

○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりについて，学習活動や教材の「見える化」に焦点を当て，全学部で実施している国語科，算数・数学科の学習で検証する。
○障害や認知及び各教科等の特質を踏まえた見方・考え方を働かせた学びや固有の知識，スキルの習得，教科等横断的な視点についても全校体制で研修する。
※研修内容を生かし，各教科等を合わせた指導においては，教科別の指導や自立活動との関連を図り，児童生徒の実態に即し，育成を目指す資質・能力を明確にして目標や内容を設定する。

全校授業研究会（各学部・寄宿舎），学部授業研究会
授業提示と授業協議及び改善授業の実施
・教育計画に基づいた指導目標・内容の設定
・単元構成検討会，学習指導案検討会の実施
・授業計画（板書計画含む）の作成と１単位時間の授業のシナリオづくり
・児童生徒の視点での授業研究会の実施（児童生徒の学びの達成度を見取った付箋紙の記入）　他

「日々の授業改善協議」
一人一回以上の授業提示（研究対象：自立活動を加える）と協議の実施
・「授業の基本チェック」の項目の整理と活用
・１単位時間の授業のシナリオづくり　他

授業づくりに関する研修会
全校研究会・学部研究会・研修会の実施，研究集録・研究部報の発行　他

授業実践を通した教育課程の改善
・カリキュラム・マネジメントを四つの側面で捉えた教育活動の改善（教科等横断的・資源活用・PDCA サイクル・個別の指計画の活用）
・自立活動の「流れ図」を生かした授業づくり
・教育課程三部会を活用した授業づくりの課題の吸い上げと改善策の検討　他